

## 安心して歯科医療を受診するために ~感染予防~

### 感染とは

病原微生物(細菌やウイルス)が種々の経路により生体に侵入して定着することを感染といいます

### 感染症とは

生体に侵入して定着した病原微生物(細菌やウイルス)が増殖したり、毒素を出すことにより起こる病気をさします

### 感染の起こり方

細菌やウイルスは皮膚、粘膜などを通して体内に侵入します。

元来、人体にはそのような外敵に対する防御機構が生来備わっています。実際には粘膜や皮膚から細菌やウイルスが侵入すると、それらの外敵を殺すために細菌を貪食する白血球や、細菌及びウイルスの働きを免疫で無能化させるリンパ球が粘膜や皮膚の下に集まって、外敵を攻撃します。

人体の防御機構の方が細菌やウイルスより勝っていると、感染はせず細菌やウイルスは全滅します。ところが人体が疲れていたり、弱っていたりして人体の防御機構や免疫機構が細菌やウイルスの力より劣っていると、細菌やウイルスは人体の中に住み着いて、人体の中で子孫を増やし定着してしまいます。

この状態を「感染した」といいます。

### 歯科診療において感染リスクを決定する要因

#### \* 治療の内容

治療の区分	治療内容	リスク	対応
出血を伴う処置	抜歯、インプラント、歯周外科治療など	高リスク	滅菌器具の使用など
歯ぐきの溝などの組織に接触する処置	根の治療、歯周治療など	高リスク	滅菌器具の使用など
出血の伴わない処置	レントゲン撮影、矯正治療、虫歯治療など	中間リスク	消毒した器具の使用など

**\* 患者の口腔内の状況**

患者の口腔内の状況	リスク	理由	対応
歯周病の患者	高リスク	歯ぐきから容易に出血するため	歯周治療を優先させる
歯周病がない患者	低リスク		

**\* 患者の全身的な条件**

全身疾患および薬剤服用による影響	高リスク	糖尿病、血液透析、化学療法、白血病患者では、感染に対する防御機能の低下を伴い、感染の危険が高くなります ステロイドの長期投与、免疫抑制剤の投与を受けている患者も感染の危険が高くなります 肝疾患、血小板減少、透析患者や抗凝固剤、抗血小板薬などの薬剤を服用している患者では出血しやすいです
ホルモンおよび加齢	高リスク	妊娠によるホルモン変化(防御能力の低下、歯肉出血が起こりやすい) 加齢に伴うセルフケア、唾液量、防御能力の低下
唾液の流量の低下	高リスク	自浄作用が低下し口腔衛生状態が悪くなる傾向がある 歯肉からの出血

**予防策として歯科医療機関が行なうこと**

**ユニバーサルプレコーション(標準予防策)**

従来、感染症の考え方は、病原体が確認されたものだけを感染症とし、予防対策を行ってきましたが、患者の保有しているかもしれない病原体は未同定として、すべての血液・体液・排泄物などは感染の可能性があるとして取り扱うのが、ユニバーサルプレコーションの考え方です。ウイルス性肝炎患者だから特別というのではなく、患者を差別することなく、合理的な歯科医療が実施できる方策です。この対策により、診断に関わりなく、全ての患者に一定の質のケアが提供でき、歯科医療従事者が媒介となって患者に感染させることも予防できます。

**滅菌・消毒・洗浄の基本**

**定義**

**滅菌**・・・すべての微生物を物理的、化学的手段を用いて殺滅させるか、完全に除去し無菌状態をつくること

**消毒**・・・人体に有害な微生物の感染性を物理的、化学的手段を用いてなくすか菌量を少なくすること

**洗浄**・・・流水と洗剤などを用いて目視できる汚染を洗い落とすこと

## 感染リスクと対策レベル

感染リスク	対象	対策のレベル	例
高リスク	* 出血を伴う処置に使用される器具 * 注射針などのように組織に刺入される器具 * 血液、血液の混入した唾液に直接接する器具など	滅菌	外科手術用器具、注射針、根の治療用具
中間リスク	傷のない正常な粘膜に接する器具	消毒	水、エア、シャワーの出るシリンジなど
低リスク	正常な皮膚のみに接する器具及び環境表面	洗浄	トイレ、洗面台、リネンなど

## 感染予防対策をしっかりと行っている歯科医療機関の見分け方

\* 率直にどのような感染予防対策がとられているのか訊ねてみましょう。すらすらと答えられれば

普段からよく考え、対策がとられていると考えてよいでしょう

\* ユニバーサルプレコーションとは何か質問してみましょう

\* 診療所内が整理整頓され、清潔に保たれていることを確認しましょう

\* 患者さんが治療いすに座ってから新しい器具を取り出すところを確認しましょう

\* ドクターはじめ衛生士やアシスタントが治療の直前に手袋をはめることまたは手洗いを十分に行なっていることを確認しましょう

手袋をつけっぱなしであったり、ポケットから出してきた手袋は使いまわしの手袋です

\* 具体的にあなた自身に使う器具などは感染対策が取られているのか、訊ねてみましょう。きちんとした対応をしていれば自信たっぷりに解説を交えて説明してくれるでしょう